

平成 23 年 1 月 13 日

各 位

会 社 名 ミクロン精密株式会社
 代表者名 代表取締役社長 榑原 憲二
 (J A S D A Q ・ コード 6159)
 問合せ先
 役職・氏名 管理部次長 遠藤 正明
 電 話 (023) - 688 - 8111 (代表)

平成 22 年 11 月期通期業績予想値との差異に関するお知らせ

この度、平成22年10月13日付「平成22年11月期第3四半期決算短信」において公表いたしました、平成22年11月期（平成21年12月1日～平成22年11月30日）の業績予想について、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 連結 平成22年11月期 連結業績予想の差異

(平成21年12月1日～平成22年11月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	2,175	△148	17	15	6円88銭
今回修正 (B)	2,028	△160	△102	△106	△46円50銭
増減額 (B - A)	△147	△11	△120	△122	△53円38銭
増減率	△6.8%	—	—	—	—
[ご参考] 前期実績 (平成21年11月期)	2,739	66	87	△38	△16円42銭

2. 差異の理由

売上高につきましては、製品の売上計上基準を検収基準としておりますが、高精度化・高能率化製品を求める顧客の検収条件の一部が未達成のため、売上が翌期以降に繰越となる案件が見込まれること等から、前回予想を1億47百万円下回る20億28百万円となる見込みであります。

なお、これらの案件は、翌期に売上計上の予定であります。

営業利益につきましては、前述の売上高の減少に加え、高精度化・高能率化製品の技術的な調整等により売上原価が増加し、前回予想を11百万円下回る1億60百万円の損失となる見込みであります。

経常利益につきましては、平成23年1月12日に開示しましたとおり、為替変動による外貨建資産等による為替差損（営業外費用）1億9百万円を計上すること等により、前回予想を1億20百万円下回る1億2百万円の損失となる見込みであります。

なお、この為替差損は、外貨建資産等による為替差損と、デリバティブ債権の期末時価評価による投資有価証券評価損を合算しております。

また、当期純利益につきましては、前述の経常利益の減少等により、前回予想を1億22百万円下回る1億6百万円の損失の計上となる見込みであります。

なお、平成23年11月期の連結業績予想につきましては、確定次第、直ちに公表いたします。

3. 個別 平成22年11月期 前期実績との差異 (平成21年12月1日～平成22年11月30日)
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績(平成21年11月期)(A)	2,616	128	140	△19	△8円05銭
今期予想(B)	1,892	△145	△80	△84	△36円66銭
増減額(B-A)	△723	△274	△221	△65	△28円61銭
増減率	△27.7%	—	—	—	—

(差異の理由)

売上高につきましては、主需要先である自動車関連業界をはじめとした、経済状況の急変に伴う設備投資の抑制による受注の減少傾向により、前期実績を7億23百万円下回り18億92百万円となる見込みであります。

営業利益につきましては、主に前述の売上高の減少により、前期実績を2億74百万円下回り1億45百万円の損失となる見込みであります。

経常利益につきましては、前述の営業利益の減少があるものの、営業外費用の減少等により、前期実績を2億21百万円下回り80百万円の損失となる見込みであります。

当期純利益につきましては、前期実績を65百万円下回り84百万円の損失となる見込みであります。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上